

【友達いなくて便所飯？】

つい先日の夕刊第一面に上記の見出しの記事が載りました。「トイレの個室で次のことを禁止します——落書き、喫煙、食事」という貼り紙があちこちの大学のトイレで見かけるようになったのだそうです。どの大学当局でも張り出した覚えがないというのですから、学生たちの仕業なのでしょう。「一人で食べる姿を、見られたくない」と周囲の視線を気にする若者が増えてきた現象の一つのようです。

或る大学中退生がこう語っています。「みんなが楽しく語らうキャンパスで、自分には友達がおらず、学食や教室に独りぼっちでいるのが、何よりも嫌だった。5月の連休明けから休みがちになり、夏休みでパチンコ屋のアルバイトにのめり込むと、学校に行くのが面倒になってしまった」中退したり、仕事を辞めてしまう原因は、「意欲の喪失」の次が、「人間関係の悪化」と「孤独」なのだそうです。



つい先日、奈良で高校3年生が、登校途中の駅で、同級生を肉切り包丁で刺し殺しました。動機について「急に相手をしてくれなくなったので強い不満を持つようになった」などと話しているそうです。

これまでですと、友達とうまくいかないことで悩むと、「不登校」や「引きこもり」になっていました。それがすぐさま肉切り包丁を買ってきて殺してしまうようになってきたのです。どうしたことでしょうか。誰でもよいから殺したくなると、多数の人を無差別に刺し殺す土浦事件や秋葉原事件、そして大阪ではパチンコ店にガソリンをまいて火を放つ事件も起りました。

人を殺してしまうとは最も恐ろしい犯罪です。よほどの確執・争い・憎しみ・怒りが高じなければ行なえない行為のはずです。それが、自分の思うように事が運ばないで悩むと、すぐ殺人に短絡してしまう人が増えてきたというのでしょうか。我慢が足りなくなりました。

確かにお金がなくても、カードや消費者金融で簡単に欲しいものを手に入れ、やりたいことがやれる時代です。我慢する必要がないのです。昨日もTVで、一万

円札は直ぐに無くなるから、主婦は財布に千円札だけ入れて外出するようになれば、お金遣いが慎重になると勧められていました。

どうしたら我慢する力を強くすることが出来るのでしょうか。幼い時からの親のしつけが、第一ですね。良かれかしと思っても、我が子に簡単には与えないことです。塾や習いごとについても、親はよくよく思慮深くなければなりません。不況で生活が非常に厳しくなりました。これは子供たちに、我慢して貧しさに耐えることを学ぶ絶好の機会ではないのでしょうか。

友だちが出来ず、便所飯が増えている。孤独に耐えられず中退してしまう——人との絆を紡いでいくことが下手になってきたのですね。昔は近所の子供たちが群れをなして、外遊びしていました。それが自分の部屋でのゲーム遊びに変わりました。ゲーム遊びに夢中になる前の幼児期に、努めていろいろな友だちと遊び、喧嘩をして泣いては、仲直りすることを数多く経験させることです。

よく言われることですが、人という字は二人が互いに支え合って立っています。二人の関係は同質ではありません。右側が左側を下から支えています。さぞしんどいことでしょう。でも馬鹿らしいからと下からの支えを止めたなら、彼も倒れてしまうのです。助け合う仲といってもどちらかがしんどさに耐えているのですね。その我慢が人の絆を紡いでいくことを、子供たちに学ばせねばならないと思います。

短絡的に人を殺してしまう——中学2年生が父親を刺し殺しました。成績のことで厳しく叱られ、一度は家を逃げ出したそうです。この父親自身が、我が子との絆を上手に紡ぐことを、親から学んでこなかったのでしょうか。子育ての影響が、孫にまで及びました。



とにかく、人は一人では生きていけません。孤立は滅びをもたらす生の危機です。私たちは、夫婦、親子、兄弟、友人、同労者、地域の人々との絆を大切にしていける心を、幼い時からもっともっと養っていかなければならないのではないのでしょうか。

人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう (聖書)